

月刊 やちまなこ

2012.7.15 発行

No. 176

7 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



夜も更けた駅のホームの外灯には我が集まり乱舞している。レールは銀色の線を描き、闇の中からアマガエルの鳴き声が押し寄せる波のように聞こえる。

昼間の賑わいとは別に夏の夜の無人駅は動物たちの生活感が漂う。闇夜に動く影、二つの眼光が先程からこちらの様子を窺っている。



コッタロ川と湿原のほとりから

145 7月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

寒さ続きの半年がようやく過ぎ、待望の季節を今や遅しと固唾をのんでいるところへ梅雨時ならぬ『梅雨擬き』に降り込められて、夏の楽しさの序曲を示す徴候もないままひよっとすると秋へ移行してしまいそうな昨今です。

濃霧と霧雨に煙る大地にはそれでも百合シリーズの先陣をきってエゾスカシユリが草丈1メートル余り伸びたてっぺんに5つもの、鮮やかな朱色を咲かせており、ハマナスもカラフトイバラも甘やかな花の香をそこいら中漂わせているではありませんか。又、ベビーラッシュにわいた夏鳥達の子育て作業が終盤にさしかかり、そろそろ旅立ちの用意をしているもの或いは早くも北や南へ帰ったものもいる中、唯一残念なのはノゴマのマー君でした。5月17日飛来し7月10日迄欠かさず歌い続けたにもかかわらず、が渡来しなかった為、営巣出来ず、単独での旅仕度でした。

ところで順調に育っていた丹頂のコツ&タロの20,21羽目のどちらかが欠損した27日からは一人っ子となってしまいました。道越しの第2コツ&タロ&16,17羽目は現在迄のところ異変はなく「お達者クラブ」そのものです。孵化後50日目を迎えてなお母鳥の背などで甘えておりますね。

さて、可能な限り自然への負荷をさげ、遠慮損耗に徹し乍ら生きておりますと、野生の方々から御褒美を頂くこともあって、今季お初にお目にかかったオオヒラタエンマムシが面白がらせてくれました。体長1cm足らずの個体は水辺の昆虫で、静止している時には思いもよらぬ仕方でもカクッと開けた甲冑の下から飛び出した小羽をゼンマイ仕掛けのオモチャよろしくブルッと震わせて飛んで行ったのには驚かされました。次はどんな珍客に出くわすのか楽しみでなりません。





茎の先に小さな花がたくさん集まって咲くオオハナウドは、草丈が1.5~2mと大型で人目に付きやすい花です。セリ科の仲間のシャクやオオカサモチ、エゾノヨロイグサ、ドクゼリなどと似ていることや花期が重なることから、名前を聞かれることが多い花でもあります。平らな花の上は虫たちが止まりやすいようで、花時は虫たちのお食事処として賑わいます。7月半ばを過ぎると平たい種を付け始めるものもあります。大きな葉、外周の花弁の裂け具合から漢字の「大」の字を連想できるなど、覚えやすい特徴があります。



土器と土偶を作りました。



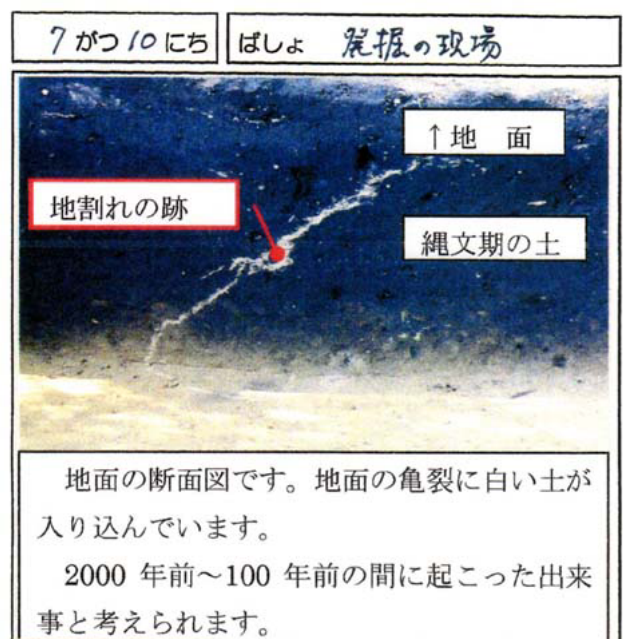
14日午前10時からレクチャールームに於いて、自然ふれあい行事「縄文土器と土偶を作ろう」を開催しました。標茶町郷土館学芸員の坪岡始さんを講師に、塘路周辺から出土した土器や石器などを見せてもらい、縄文時代の釧路湿原の環境や生活の様子などの話を聞いたあと、早速制作にとりかかりました。土器は底の部分を作り、その上にひも状にした粘土を輪積みしながら作りますが、その時に空気が入ると焼くときに膨張して破裂するので注意することや土偶は人の形をベースに様々な装飾を施した写真を参考にしながら作りました。今回の作品は自然乾燥をしたあと、8月に野焼きをしてから、参加者に渡します。どんな風合いの平成プラス縄文土器と土偶が出来上がるのか、今から楽しみです。

つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.63「痕跡を記録する事の大切さ」

先日、浜中町の中学校が来て先史時代のお話をしました。その時に道東で大地震による津波の想定が発表され、浜中町琵琶瀬では34.6mの津波が予想されていた為、遺跡の調査で、過去にその場所で津波があった場合には、地層を見ることにより津波が来たのかがわかる事を説明しました。また竪穴住居が現在でも残っている場所は、大きな災害を受けにくい場所であるかもしれないと言う事を説明しました。

私はこれまで発掘調査した中で、地震による地割れと思われる痕跡を見つけた事があります。地震により亀裂の入った地面に別の土が入り込み、細かいジグザグ模様が地面に浮かびました。遺跡とは関係ありませんでしたが、一応記録の為に写真撮影をしました。

全国で行われている遺跡の調査から、こうした情報を集約すれば、防災に役立つのではと改めて思います。 坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



8月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

ぶらり塘路～歩こう！描こう！感じよう！

【日時】8/18(土) 10:00～13:00

【定員・参加料】10名、無料

【場所】塘路湖エコミュージアムセンター

【持ち物】色鉛筆、筆記具、飲料水、昼食

問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

夏の湿原花ハイク 【日時】8/5(日) 10:00～12:00

ザリガニウォッチング 【日時】8/12(日) 10:00～12:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルト湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(6/16)ヤマブキショウマ・コケイラン・アオチドリ・オオアマドコロ・ハイキンボウゲ・ミツバウツギ・フランスギク (6/19)ヒオウギアヤメ・アズキナシ (6/22)カキツバタ・クロミサンザシ・サギスゲ・カラフトイバラ・ホオノキの花・オニグルミの雌雄花 (6/25)ツルウメモドキ・エゾオオヤマハコベ (6/29)ニシキギ・カンボク (7/1)バイケイソウ・チシマアザミ・オオハナウド (7/6)フタマタイチゲ・オオダイコンソウ・クマイチゴ・オニシモツケ・コウゾリナ・シベリアシオガマ・クサフジ・エゾノレンリソウ・エゾノカワラマツバ (7/10)エゾノシモツケソウ・エゾノミズタデ・ホザキシモツケ (7/13)キヌガサギク (7/14)エゾタツナミソウ・ヤマグワの実

【鳥】(6/16)ベニマシコ (6/29)オジロワシ・アオサギ・ヨシガモ・マガモ (7/1)カワセミ・ゴジュウカラのヒナ (7/7)カッコウ・コヨシキリ・ノビタキ (7/14)アマツバメ・オオハクチョウ

【その他】(6/21)気温10 暖房を入れる (6/22)ベニシジミ・サトキマダラヒカゲ・ホンサナエ・ヨツボシトンボ (6/25)ナガメ・クロヒカゲ (7/1)エゾイトトンボ・カラスアゲハ・ヨツボシヒラタシデムシ (7/6)フタスジチョウ・ヒメウラナミジャノメ (7/9)キタキツネ (7/10)コチャパネセセリ (7/13)エゾスジグロシロチョウ・シオカラトンボ

夏期水曜開館日のお知らせ

7月18日から8月15日までの毎週水曜日は開館します。

バードカービング作品展のご案内

7月28日から8月19日まで、レクチャールームに於いて、平成23年度自然ふれあい行事「バードカービング講座」の参加者と講師の作品「カワセミ」を展示します。ぜひご覧ください。

日出・日入時間 7/15(3:57, 19:00)・7/31(4:12, 18:45)・8/14(4:27, 18:26)



湖岸で休むホンサナエ (塘路湖 7/13)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料